

卷 頭 言

法華律の名僧本覺院日英はかの寂照乾・心性遠二師ならびに飯高の禪那忠師をしてその持律堅固、博學高才を讃嘆、敬重せしめた人である。一日、學識をはこり天下に敵なしと豪語する學人に「予、昔講場にあつてまず暗誦を専らにす。暗誦よく熟してのち工夫因案して漸やく一義を得たり」と述懐し、「我いま老いたりと雖も少しく余殘あり、子それこれを聞け」と天台、妙案及び末師註出の書に至るまで懸河無碍、飛屑綿々と暗誦しその學人をして報然・慚愧、感謝して辞せしめたという。

現今は往々にしてまず理解させることが第一で、意味をよく知らせなければならぬ。意味もわからぬのに暗記させても役に立たぬといわれる。たしかに一理はあるがそれは一往の片理で、幼童より無意識に覚えた知識が理解の基礎となつてゐることは何人も否定できぬ所であらう。日英が暗誦を先とするというのは反復暗誦することはいわゆる説書百遍、義自から見る^{あき}ことを教えてゐるのである。

仏教の最要は成仏得道にある。成仏得道の教えは大別して大綱と綱目に分けられ、大綱は成仏の法、法華經であり、綱目は補説の諸の大小乘經である。宗祖はこの大綱の教法を弘めんためには一代の聖教をそなえ、八宗の章疏を習學せねばならぬと嚴誡されてゐる。

さて本學々園の図書館建設も昨年着工以來麗障なく順調に進捗しこの三月十七日上棟式を挙行する運びとなつた。完成は目前である。本學の學生、本化門下の學人は新裝の成つた図書館において大綱・綱目・八宗の章疏、関連諸學の資料を自由に手にとり研究する至便を得ることが出来るのである。願くは我等能所の學人、俱に四海帰妙の願業成就にむかつて精進、行學二道の學是に邁進せんことを。

昭和六十三年三月十三日